南海トラフ地震に関する情報が発表された場合の対応

平成29年11月1日から「南海トラフ地震に関する情報」が定められました。これは、巨大地震が予測されている南海トラフ（駿河灘から四国沖・九州沖に続くプレート境界）で異常な現象が観測されたり、大地震発生の可能性が高まった時に出されます。

この情報が発表された場合の対応は、様々な状況があり得るので国や地方自治体でも検討中です。大学については、授業の実施や帰宅など、大学の指示に従って行動し、あわせて各自で情報収集に努めて安全を確保して下さい。また、情報が発表されずに突然地震が発生する可能性もあることから、日ごろの安全対策や被災時の準備などが一層大切になります。なお、対応方針については今後追加・変更される可能性がありますので、注意して下さい。

緊急地震速報

緊急地震速報は、震源の近くで地震の発生をキャッチして、少し離れたところに地震の揺れが伝わる前に警報を出すしくみです。NHKのテレビ放送や一部の携帯電話、専用端末などを通じて広く一般に伝えられます。名古屋大学内では、屋外放送スピーカーや多くの建物の館内放送を通じて緊急放送されます。警報が出てから大きく揺れるまでの時間は数秒から数10秒程度と短く、場合によっては警報が出る前に強い揺れが始まってしまうこともあります。そのため、この情報を受けたときは、慌てずにまず身の安全を守る行動をとりましょう。例えば、丈夫な机の下に隠れたり、ブロック塀の近くから離れるといった対応が有効です。日ごろから、どのように身を守るべきか考えておくと、いざというときに落ち着いて行動できます。詳しい情報は気象庁ホームページなどで入手することができます。

非常時の連絡方法を確認しよう

大災害のとき、家族、友人、大学と連絡をとる方法はたいへん重要です。一般の電話や携帯電話（音声）は非常につながりにくくなります。その場合、災害伝言ダイヤル171や携帯電話の災害伝言板サービスなどを活用しましょう。大学への連絡は、安否確認システム（1ページ）を使いましょう。

●災害用伝言ダイヤル 171

171番に電話をかけて、音声ガイダンスに従い「被災地内の電話番号（市外局番を含む）」を入力すると、安否等の伝言を1伝言あたり30秒、計10伝言まで預かってくれるサービスです。
災害時のみ利用できますが、防災週間（防災の日（9月1日）を含む1週間）および防災とボランティア週間（1月15日～1月21日）、毎月1日、15日などに体験することができます。
http://www.ntt-west.co.jp/dengon/index.html（NTT 西日本）

●災害用ブロードバンド伝言板 web171

ブロードバンドの特性を生かして、音声や画像も登録できます。
http://www.ntt-west.co.jp/dengon/web171/index.html（NTT 西日本）

●携帯電話の災害用伝言板サービス

携帯電話のデータ通信では、災害時になると「災害用伝言板」がトップメニューに出てきて、その伝言板を通して安否確認の連絡ができます。詳細は各社の資料で調べてください。安否連絡先の事前登録システムもあります。

●緊急連絡用メールアドレス

大学からの緊急連絡や安否確認システムに使用されます。学生・教職員に毎年1回義務づけられている「年次情報セキュリティチェック」で登録します。
5月下旬には安否確認システムを使用した前期防災訓練が実施されます。4月中に「年次情報セキュリティチェック」を行うようにしましょう。

大規模災害発生時の心のケア

大規模災害時には、心も身体も調子をくずすことは珍しくありません。
不安、不眠、落ち着かないなど心配があれば学生相談センターに連絡して下さい。
http://gakuso.provost.nagoya-u.ac.jp（学生相談センター）

緊急時の学内連絡先

◆**東山地区**　本部守衛室に連絡を
携帯から　本部守衛室　052-789-2111
内線は　同　上　110 ,119

◆**鶴舞地区**　防災センターに連絡を
携帯から　防災センター　052-744-2939
内線は　同　上　5555
学生関係　医学部学務係　052-744-2430

◆**大幸地区**
学生関係　教務学生係　052-719-1518

○学部等教務学生係等（平日昼間のみ）

●東山キャンパス

・文学部	789-2206	・多元数理科学研究科	789-5756
・教育学部	789-2606	・環境学研究科	789-4272
・法学部	789-2317	・創薬科学研究科	747-6780 747-6775
・経済学部	789-2357		
・情報学部	789-4823	・教養教育院事務室	789-4725
・理学部	789-2808 789-5756	・災害対策室	788-6038
		・保健管理室	789-3970
・工学部	789-3599	・学生相談センター	789-5805
・農学部	789-4010		
・国際開発研究科	789-4957	名古屋第二赤十字病院	832-1121(代)
・情報学研究科	789-4721	名古屋大学医学部附属病院	741-2111(代)

連絡先は変更になる場合があります。
災害時には電話が繋がらないことがありますので名古屋大学のホームページを確認してください。

名古屋大学地震防災訓練

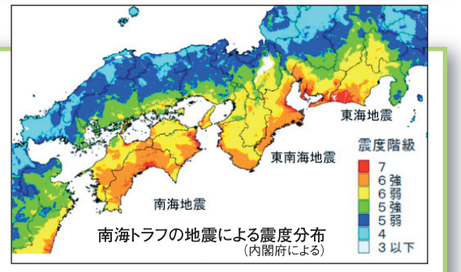
2020年10月28日(水) に全学地震防災訓練を実施します。教職員や学生など全員参加で行われます。

2020年度版 名古屋大学地震防災ガイド

地震防災はなぜ必要か?

東海地域では近い将来に南海トラフの地震などによる大災害の発生が予測されています。名古屋大学で学ぶに当たって、地震から命を守り、災害に適切に対応するために、すまいの選択や室内の安全確保、非常用品の準備などが必須です。また大学内には実験機器・薬品や重量物など地震時に危険なものも多数あります。地震災害を人ごとと考えず、ぜひ事前の備えをしていきましょう。

東海地域の大地震



南海トラフの地震による震度分布
（内閣府による）

❶愛知県沖の太平洋の海底では、3つの大地震が90～150年くらいの間隔で、繰返し起こっています。

駿河湾から九州沖の太平洋海底のプレート境界が「南海トラフ」です。南海トラフ沿いで最後に起こった大地震は、1944 年の東南海地震と1946 年の南海地震です。東海地震は 150 年以上起こっていません。次の大地震が近づいていると予想されます。

❷3つの地震は、同時に発生するかもしれません。

南海トラフの地震は、さまざまな起こり方をしています。3 つが同時に起きたこともあります。このとき東日本大震災に匹敵するマグニチュード 8.8 ～ 9 の大地震となり、右図のように広い地域で震度 6 以上の強い揺れになります。揺れは数分も続くので、そのあいだは身を守る行動をしましょう。

❸高さ10m 以上の大津波が発生します。

海底で大きな地震が起こると津波が発生します。南海トラフの大地震では、太平洋に面した海岸で高さ10m 以上の大津波が短時間で来ます。伊勢湾でも 3 ～ 5m になります。海の近くで揺れを感じたら、すぐに海岸から離れて高い場所に避難しましょう。

南海トラフ巨大地震について確認しよう！　http://wwwc.cao.go.jp/lib_012/nankai_all.html

いますぐチェックしましょう!

地震に対する身のまわりの備え

地震による被害を最小限にとどめるためには、日頃から地震に対する備えと心構えが必須です。

◆室内の安全性は確保されていますか?
建物が倒壊しなくても、室内は大きく揺れます。重く背の高い家具は凶器と化します。（2～3ページへ）

◆非常持ち出し品を準備していますか?
広域が同時に被災すると、食料や水の供給が当分の間ストップします。何をどれくらい準備しておくべきでしょうか?（2ページへ）

◆連絡方法を確認していますか?
災害発生直後は電話がつながらなくなります。家族や友人同士で安否を確認したいとき、どのように連絡すればよいでしょうか?（4ページへ）

◆避難場所や避難経路を確認しましたか?
自宅にとどまることができないとき、避難場所はどこですか?　そこまで安全に行けますか?（2ページへ）

◆地震発生!まず真っ先に何をしますか?
地震は発生時間を選びません。あなたがどこにいても突然発生します。最初に何をしますか?（2ページへ）

名古屋大学安否確認システム

名古屋大学では、災害時に学生・教職員の安否確認を進めるため「安否確認システム」を用意しています。以下の手順で災害時の安否確認にご協力ください。年2回の防災訓練で使用しますので、緊急連絡用メールアドレス登録などできるだけ早く準備してください。

①緊急連絡用メールアドレスの登録
学生・教職員に毎年 1 回義務づけられている**「年次情報セキュリティチェック」**で行います。学外でも受信できる携帯電話、スマートフォンなどのアドレスを登録してください。

↓

②登録されたメールアドレスに名古屋大学から一斉メール発信
災害が発生すると、大学から安否確認一斉メールが発信されます。

↓

③メールの受信と安否状況の入力
一斉メールの指示に従い、安否確認システムに接続して、本人の安否状況や関連情報を入力してください。

●編集　名古屋大学災害対策室　●発行　平成 2020 年4月1日

大地震が発生したら…

自分の身を守る（最初の数秒）

揺れを感じたとき、または緊急地震速報が鳴ったときは、ただちに危険な家具や器具などから離れて、丈夫な机の下などで身の安全を図ります。特に頭を守るように注意しましょう。可能なら扉を開けて避難経路を確保します。

揺れがおさまったら（2～3 分）

落ち着いて火を止め、電気のブレーカーも落とします。周辺の人の無事を確認し、余震に注意して、建物外に避難します。避難にはエレベーターは使わないこと。

避難したら（5～10 分）

情報や指示をよく理解し、建物外の安全なところに避難したら、パニックや二次災害を防ぎましょう。

安全に気をつけて消火や救助の支援（1～数時間）

大災害時は救助もおくれがちになります。自分の安全が確保できる範囲で、消火や救助活動などを手伝いましょう。

家族や友人、大学などとの連絡（1日程度以内）

あらかじめ決めておいた方法（4ページ参照）などにより互いに連絡をします。大学には安否確認システムにより居場所やけがの状態などを伝えましょう。

講義中だったら…

書棚やつり下げテレビなどから離れ、机の下などで身の安全を守ります。実験機器や薬品などを使用している場合はすぐに離れ、揺れがおさまったら可能な範囲で始末をします。教員の指示に従って行動して下さい。

学内の避難

おおぜいで出口や階段に殺到するとたいへん危険です。学内の各建物では、教職員や「自衛消防隊」が誘導しますので、落ち着いて指示に従い避難してください。建物ごとに「一次避難場所」が決められています。

通学途中だったら…

歩いているときは、ブロック塀や自動販売機、看板、ビルのガラスなど危険物から離れます。カバン等で頭を守って、公園や広場などの安全な場所へ。

電車や地下鉄、バスなどに乗っていたら…

車内放送を聞き、落ち着いて係員の指示に従います。勝手にドアを開けて外に出ないこと。対向車両などの危険があります。

転倒した書棚に潰されたテーブル

機材が散乱した化学実験室

倒壊した石塀

日頃の備えが大切!

住まいを安全に

アパートなどを借りるときは、安全な地域で耐震性のある建物を選んでください。自治体では、地震、津波、水害などのハザードマップを公表しています。家具転倒防止やガラス破損対策をして、大地震時の室内の安全を確保してください。自宅が古い建物の場合は、耐震診断・耐震改修を検討してください。

非常持ち出し品を準備

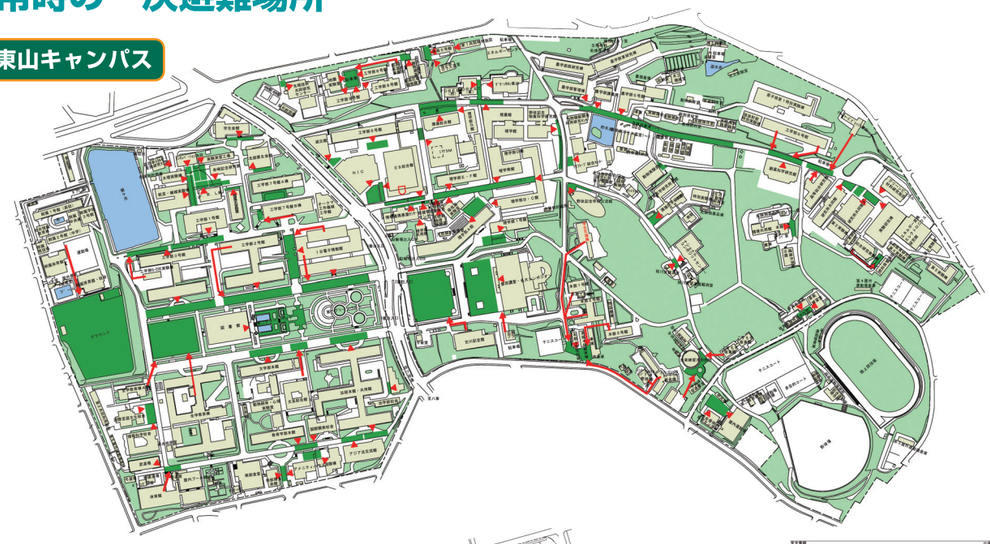
災害時に必要なものはひとりひとり違います。持病の薬やメガネのスペアなど、必要なものをリストアップして準備しておきましょう。また、誰にも共通して必要なものとしては、食料や水（3日分以上、できればさらに多く）、現金や保険証などの貴重品、ラジオ、懐中電灯、衣類などがあります。大学や外出先で災害にあうこともありますので、小型のラジオ、ライト、携帯電話の充電器（電池式）、非常食料などをかばんに入れておくと役に立ちます。

避難場所と避難経路、帰宅方法を確認

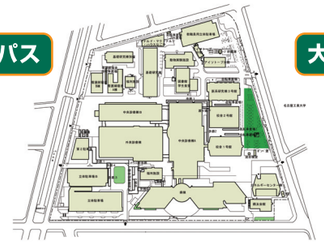
自宅や職場近くの避難所と、そこまで安全にたどり着くまでの避難経路を確認しておきましょう。名古屋市の場合、市のホームページに区ごとの「避難所マップ」が公開されています。指定された避難所に限らず、家族で落ち合う安全な場所を決めておくことも重要です。海岸に近い場所では、地震後の津波からの避難に特に注意してください。また、災害時の帰宅方法をチェックしておきましょう。大災害時には無理に帰宅しようとせず、大学等の安全な場所にしばらくとどまることも必要です。

非常時の一次避難場所

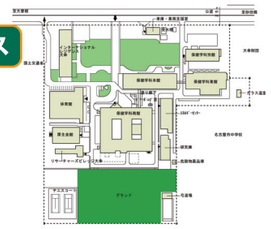
東山キャンパス



鶴舞キャンパス



大幸キャンパス



災害時救護センター

一次避難場所

避難先指示

一次避難場所は、大地震などの災害発生時にまず避難する建物周辺の安全な場所で、建物毎に指定されています。ここで安全を確認し、大学からの指示を待って行動してください。

大学の室内の地震防災対策

什器や機材の転倒・落下・破損などの防止

名古屋大学では「家具安全対策ガイドライン」があり、危険な家具は全て固定することになっています。背の高い書棚やロッカーは転倒しないように固定し、パソコンやテレビ、重い書籍や破損しやすい機材は落下防止対策を確実にとりましょう。キャスターのついた機器は、臨時に固定する方法もあります。

実験装置や薬品の危険防止

実験室では、重く壊れやすい実験機材が多く、危険で有毒な薬品やガスなども使用しています。日頃から危険な薬品等の整理・収納を徹底するとともに、地震時の安全のために機器の固定や破損防止、薬品の漏洩防止などの対策や、消火器の設置などをしましょう。大地震の際は、可能な限り装置を安全に停止し、火気の始末等をしますが、無理はしないようにします。また、薬品火災などに備えて適切な対応を確認して下さい。固定が困難な機器は災害対策室に相談して下さい。

避難場所や経路の確認

各建物の近くの 1 次避難場所や避難経路が決められています。あらかじめ確認し、スムーズに避難できるようにしましょう。また階段や非常口などに荷物を置かないように注意します。

みんなで確認して備えましょう

非常時には互いに助け合うことが必要です。教室や研究室では、防災訓練などで非常時の対応を確認しましょう。特に障害者や留学生などは避難のサポートが大切です。研究室などでは、教員との緊急連絡方法の確認や災害時の非常持ち出し品の準備などもしましょう。

転倒すると通路をふさぐ棚（名大の例）

揺れによる化学実験室の火災跡（東北大学）

https://portal.nagoya-u.ac.jp/app/group/faculty/business/disaster-prevention （名古屋大学ポータル防災タブ）へ